

浜岡原子力発電所 2号機 原子炉建屋内(放射線管理区域内)での  
計装配管からの水の漏えいについて (統報)

2011年9月9日

■今回お知らせする内容

原因	<p>当社は、2010年10月29日に発生した2号機の液体廃棄物処理系のpH計入口配管接続部(フランジ部)からの漏水について原因を調査した結果、pH計出口弁(以下、「当該出口弁」という。)の動作が緩慢となり、pH計に過大な圧力が加わり、pH計検出器収納ホルダ(ポリ塩化ビニル樹脂製)に割れが発生し、漏れたものと判断しました。</p> <p>当該出口弁の切替動作を確認した結果、正常な弁に比べ約3倍の時間(切替時間:約9秒)を要することを確認しました。</p> <p>このため、当該出口弁は、構造上、切替動作中に一時的に締め切り状態となる構造であり、切替動作に通常の3倍の時間を要したことで、締め切り状態が長時間継続し、pH計検出器収納ホルダ部に耐圧設計値を超える洗浄水圧力(約700kPa)が加わったと推定しました。</p>
対策	<p>当該出口弁について、切り替え動作中に締め切り状態とならない構造の弁へ取り替えます。</p>

■これまでにお知らせした内容

(2010年10月29日公表)

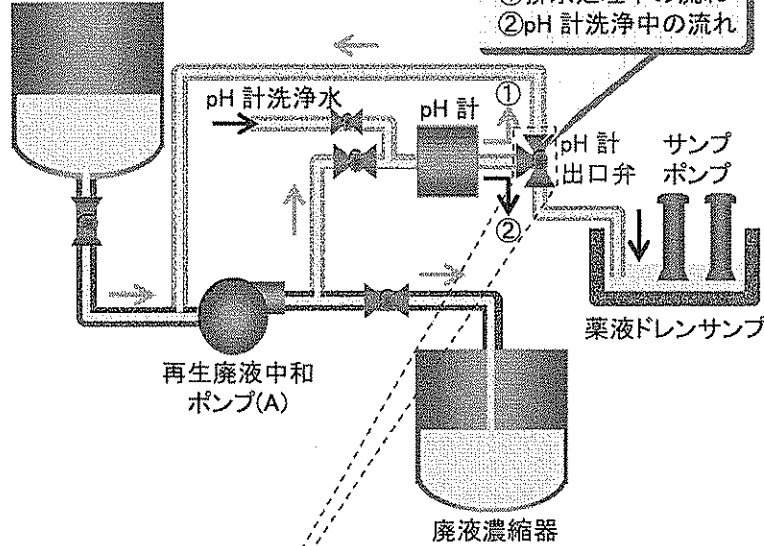
発生号機	2号機(廃止措置中(第1段階))
発生年月日	2010年10月29日
発生時の状況	<p>当社は、2号機の液体放射性廃棄物処理系で再生廃液収集タンク<sup>*1</sup>水の排水処理を実施していました。</p> <p>午前10時19分、委託運転員(協力会社社員)が、排水処理終了後に水質確認用のpH計の洗浄状況を確認したところ、pH計付近の床面に漏えい水があることを確認しました。</p> <p>確認時には霧状にわずかな漏えいがありましたが、直後に漏えいは止まりました。</p> <p>漏えい水の量は約21リットルです。</p> <p>また、漏えい水に含まれる放射エネルギーは、約<math>5.0 \times 10^4</math>ベクレル(国への報告基準<sup>*2</sup>の約70分の1)でした。</p>
今後の対応	<p>漏えい水は拭き取りにより、適切に処理を行いました。また、pH計の入口配管接続部(フランジ部)から漏れていたことを委託運転員が確認しており、今後、漏えい原因の調査を行います。</p>
放射能の影響	<p>本事象による外部への放射能の影響はありませんでした。</p> <p>また、当社社員、協力会社社員に計画外に放射線を受けた者はいませんでした。</p>
お知らせ基準	<p>運転情報「表1-2 管理区域内において、放射性物質を含む機器等からの水の漏えいを発見したとき(但し、1リットル程度に至らない微少な漏えいを除く。)」に該当します。</p>

- ※1 再生廃液収集タンクは、放射線管理区域内の作業で発生した廃液等を中和させるためのタンクです。  
なお、液体放射性廃棄物処理系は、発電所の運転に伴って発生する液体状の放射性廃棄物を処理するための系統です。
- ※2 国への報告基準とは、 $3.7 \times 10^6$ ベクレルです。

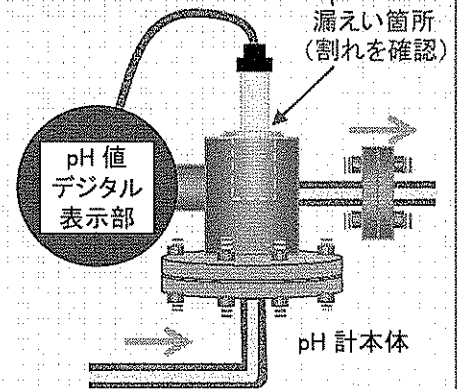
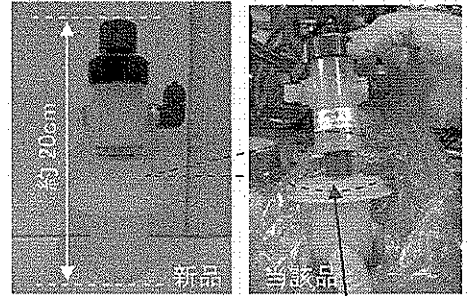
以上

2号機 液体廃棄物処理系再生廃液収集タンク(A)の系統概要

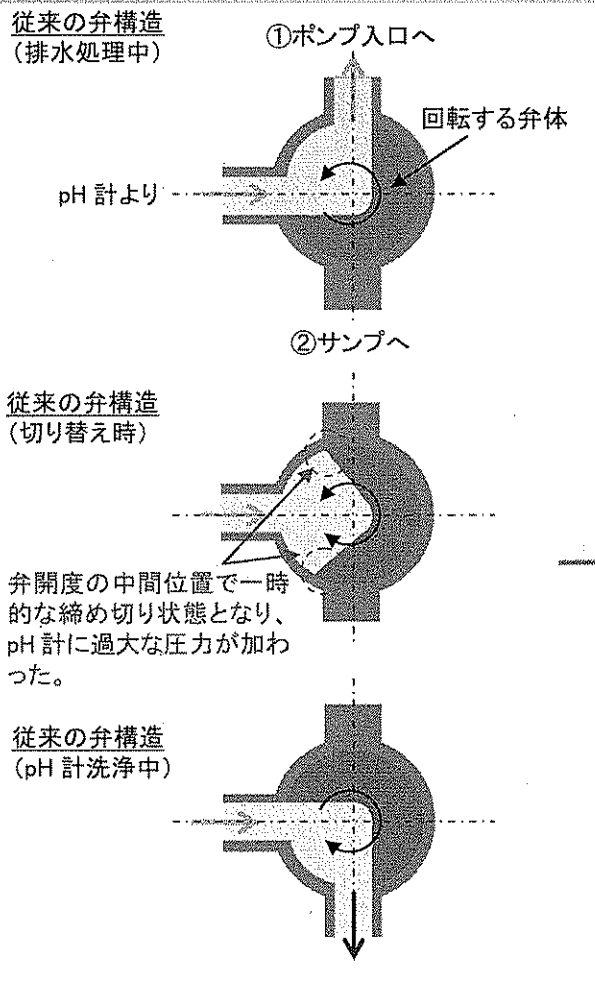
再生廃液収集タンク



pH計漏えい発生箇所



pH計出口弁の構造(現状)



pH計出口弁の構造(対策案)

